

第1分科会：政治・経済

北東アジアにおける国境をまたぐ地域の地域開発に関する一考察

金子 彰（東洋大学）
小 俣 菜 菜（東洋大学大学院卒業生）

はじめに

環日本海地域を構成する国々の国境をまたぐ地域は開発から取り残されてきたところが少なくないが開発の可能性が高くなってきた。本稿においてはこれら地域の開発についてその視点、方向などを整理するとともにモンゴルにおけるケーススタディとその成果をふまえた提言を示す。

1. 国境をまたぐ地域の地域開発とは

国境においては一般的に何らかの障壁があり、その高さは国や地域により異なるが基本的には低くなる方向に向かっている。環日本海地域においても同様であるが一部をのぞいてはこれからの課題である。国境をまたぐ地域の地域開発がメリットをもつのは例えば①両国の人件費に大きな差のある場合、②両国に資源（天然資源のみならず技術や人的資源を含む）の存在量に差のあるときおよび③地理的条件の克服につながるときなどである。ただし①②の場合は障壁が次第に低下その効果がその背後、周辺に拡大していく。これに対して③はそのためのインフラ特に交通インフラがキーとなる。

2. 地理的条件の克服をめざした国境をまたぐ地域の地域開発

前章③に関していうと、特に新たに形成される幹線交通ネットワークにより国境をまたぐ地域の開発が相互に可能となる場合が有効で直接接して

いなくてもこのネットワークにより広域的に可能となると考えられる。具体的にはア、内陸国などで新たな海への出口が形成される場合、イ、時間、距離の大幅な短縮になる場合、およびウ、新たな輸送手段による海上交通網が形成される場合などが考えられる。

3. モンゴルにおける現地調査とその結果

上記のうち主としてアに該当するものとしてモンゴルと中国東北部の国境をまたぐ地域に着目した。このうち中国側（内モンゴル自治区）は比較的开发が進んでいるがモンゴル側の地域は畜産、鉱業、観光などについて高いポテンシャルが指摘されながら交通ネットワークの未整備や希薄な人口などから開発が遅れた辺境におかれている。しかし、国連の図們江開発構想をベースとした鉄道プロジェクトにより可能性が見出された地域である。

詳細は本稿では省略するが、筆者らのモンゴルの現地調査の結果は以下に集約される。①モンゴル東部地域における国境をまたぐ地域開発の重要性は十分認識されている。②当該地域には開発の可能性はあるが交通インフラの不足もあり具体的なものはすくない。③当該地域は環境上センシティブな地域であり特に環境への配慮が前提となる。④当該地域の開発はモンゴルだけでは困難で外部の資本、技術が必要である。⑤しかしロシア、中国との関係が課題であり両者のバランスが重要である。

4. まとめと提言

北東アジアは極めて多様性の大きな地域である。このため、いかに相互補完の関係すなわちWin-Winの関係が築けることが重要である。この中で、経済についても国境をまたぐ地域開発の便益が関係する国毎に納得される形で配分されることが重要で、そのためには国毎の便益の帰属を可能な限り定量的に明らかにしていくことが必要である。また利害とは別に過去がありこれについては公正な認識に基づいた議論が必要であろう。

現在エネルギーをはじめとして北東アジアに関して様々なプロジェクトの具体化の提案がなされその実現のための金融システムなども提案されている。これらはいずれも緊急の課題である。このためには個別プロジェクトと並行して利害が輻輳しているからこそ共同作業により地道な足固めを

することを提案したい。すなわち、

- ① 共同作業により北東アジア全体のグランドデザインを構築すること。
- ② 相互の利害を科学的に示すため社会経済データを共通で整備する。その中で地域間産業連関表を更新すること。
- ③ 国境の障壁を低くする政策、特に国境通過および輸送に関連する制度の再編成を共同で進めること。

おわりにあたり、本稿は東洋大学平成15年度特別研究および井上円了記念研究助成金による研究成果である。このような研究の機会が与えられたことに感謝したい。また、現地調査や研究会などで多くの方の協力を得た。これらの方々にも感謝したい。なお多くの資料を参照しているが紙面の関係で省略している。

COMMENT

特にモンゴルにおける現地調査をもとに国境をまたぐ地域開発の発表をもとに、北東アジア全体に敷衍して言及した発表である。

国境を越える手段としては交通であるが、これは経済の振興や人的交流のインフラの問題あり基本である。しかしながらモンゴルについては外部資本の導入が必要であると提言しているが、それならばそのための手段と方法をもう少し提言すべきではなかったか。

中国とロシアに囲まれたモンゴルであるならば、両国との補完関係が意義あるものであるとの認識のもとに、国際的協力関係は当該国だけで無理ならば当該国と近隣関係のネットワーク協力関係で、どのようなところに協力を仰ぐ方法と手段があるのかを、もう少し研究すべきであろう。真

佐々木宏茂（東洋大学）

の補完関係があるならば、国境は空路を通じて近隣国を超えても国境をまたぐことは出来る。その可能性もあるのかどうかも研究対象としてもよいのではなかろうか。

相互の利害関係、外資導入問題、共通の一致点、政治問題、国民相互の文化的理解と相互の人的交流などプラスに作用するときに、国境をまたぐ地域開発が進展することになろう。

本発表は問題提起が主となっているが、問題の視点は北東アジアの全体の課題である。現在、実施の前段階としてどのような貿易回路の提案があるのか、それをもとにネックとなる部分の研究や実現可能性があるのかも、今後の研究にしたら如何であろうか。